

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

●理事会報告	1
●ロンドンブックフェア	2
●通関統計	3-9
●新入会員紹介／第11回ボーリング大会	10

理事会

理事会報告 2011年4月21日(木)

- 2102 年度決算報告
事務局から詳細説明があり、討議の結果承認した。
- 2011 年度予算討議
ほぼ前期通りの予算となり、討議の結果承認した。
- 創立 70 周年記念事業への取り組み
「記念の会」(仮称)に関して総務委員長から報告があり、派手な演出を控えて予定通りに行う事とした。また特別会計からの繰入に関して質疑があったが、取りあえず予算として確保し、詳細は総務委員会の作業を待つ事とした。
- 総会進行
総会議事の中の下記担当を決定した。
a. 理事会報告 → 土方副理事長
b. 閉会時挨拶 → 仲理事
- その他
事務局から出された職員規定の改定に関しては、項目の詳細を纏めて次回の理事会で再度討議する。ただし退職積立金に増額に関しては予算化しておく。

会社代表者変更(敬称略)

丸善株式会社

新代表者 代表取締役会長 石井 昭
 代表取締役副会長 新田 満夫
 代表取締役社長 土方 裕之
 旧代表者 小城 武彦(小城氏は取締役として残られます)

株式会社 三善

新代表者 代表取締役社長 塩満 真信
 旧代表者 大澤 久治(大澤氏は取締役として残られます)

入・退会のお知らせ

退 会	株式会社 OCS (旧海外新聞普及)	3月31日付(正会員)
	タッシェン・ジャパン 株式会社	3月31日付(正会員)
	株式会社 小野包装	3月31日付(賛助会員)
入 会	(株)テクノミック	3月15日付(正会員) …10 ページを参照下さい

ロンドンブックフェア

1971年にOxford Streetにあるホテルの地下を借りて行われた第一回目から数えて40周年を迎えたロンドンブックフェアが4月11日―13日に開催されました。

アイスランド火山の噴火により閑散としたまま終わってしまった昨年の挽回をすべく、今年は大変な盛り上がりを見せました。最終日こそ落ち着きを見せ、午後にはすっかり人が少なくなりましたが、初日・二日目はブース間を移動するのにも一苦労するほど人であふれており、改めてロンドンブックフェアの関心の高さを認識しました。

その他にも、会場2階部分に600席近く設けられたライセンスセンター（版權の売買を行うミーティングスペース）は全て満席、デジタルゾーンにおいては昨年度の22社から46社（参加国は7カ国から14カ国）と倍増するなど、主催者側も「改めてロンドンブックフェアが重要な位置づけであることが40周年という場において証明できた」と発表しておりました。出版業界におけるロンドンブックフェアの重要性が薄れることなく残るのはロンドンを拠点に活動する自分にとっても喜ばしいことであります。

但し、年々関心が高まっていると思われるデジタルゾーンにおいては、インドの6社をはじめ韓国、ギリシャ、イタリアなどの初参加国があったものの、米国から19社、開催国のイギリスから15社と2カ

国で大半を占め、各国のロンドンブックフェアにおけるデジタル面での意識の低さが表れていました。ゾーン自体が会場の端に配置されるなど、電子書籍が（アメリカ等の電子書籍大国と比較すると）そこまで浸透していない欧州各国を対象としているロンドンブックフェアにおいてはフランクフルトブックフェア程、デジタルゾーンが重要視されていないような印象を受けました。

ロンドンの街中においても、Kindleで読書する人を頻繁にみかけるようになったため、徐々に浸透しつつある電子書籍への取り組みが今後期待されます。

尚、例年ブックフェアはアールズコートで開催されていますが、現在会場のオーナーがその土地を一大住宅地に立て替える計画を立てており、早ければ2012年のオリンピック後の着工を目指しているとのこと。英国においてはこのような計画は遅れるのが常となっているため、ブックフェア運営委員は翌年以降も本会場での開催希望を早々に発表しております。

2006年にロンドン東部で開催されたときにはアクセスの不便さなど来場者から不満が募ったとのことですので、今後ともアールズコートで開催されるようお願いいたします。

（丸善ロンドン出張所長 坂本健悟）



2010年(平成22年)1月～12月 洋書輸入・輸出統計

荒木 亮一

3月11日に発生した「東日本大震災」で亡くなった方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、被災されました方々に心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

本年も、財務省の「日本貿易統計2010年」から、洋書および関連品目の数値を抽出して、国別、品目別などの一覧表にまとめた。多少のコメントを付記してご報告させていただく。これらの数値はホームページの“年内の累計(2010年1月～12月)”による。因みに、“年度内の累計”も表示されるが、これは(3月～4月)の数値である。

今年は統計資料検索の際に惑った。【お気に入り】に登録しておいたいつもの“財務省貿易統計”ホームページが何回クリックしても「表示できません」となった。東日本大震災の直後のことでもあり、何か問題が発生したのかな、と悩んだ挙句に財務省の他の情報を検索すると、
【3月18日(金)18:15～3月22日(火)09:00頃まで“機器メンテナンスのため、税関ホームページ及び貿易統計ホームページのご利用ができなくなります。”】という案内に辿りついた。そういえば、と、やっと思い出した次第である。今後は、頭の片隅に残して置くことにする。

松が取れて間もなくの1月20日、朝日新聞の夕刊を開いて【“マイクロフィルム 劣化で読めず” 白い粉・酢酸臭……まるで「酢こんぶ」——図書館資料ピンチ】のヘディングが目飛び込んだ。そして執筆を始めてから再び4月5日の朝日新聞夕刊に【“コミック発売延期／雑誌、ネット無料公開” 紙不足 苦しむ出版業界】のニュース。【医学書院、学研などは、医学や子育ての実用書をネットで公開、岩波書店は「科学」で過去に取り上げた原発関連の記事を公開した】と報じた。有能なトラブルシューターが求められる一年になりそうである。

参考までに貿易概況(報道発表平成22年度分<確定>)を見ると、輸出総額は67兆3,996億円、前年比+24.4%で3年振りの増加、輸入総額は60兆7,650億円、前年比+18.0%で2年ぶりの増加、差引6兆6,346億円、前年比+148.4%の出超で2年連続の増加と報告されている。

る。平成22年度の増加品目には、輸出に自動車とその部品および鉄鋼、輸入に原油、液化天然ガス、非鉄金属が含まれていた。残念ながら“洋書”の輸入は減少であった。

1) 主要品目の輸入額(表1-a, b, c) :

★ 洋書輸入統計表(表1-a)に示したとおり、前年比でみると、“新聞・雑誌、その他の定期刊行物”が二桁の減少となったが、“書籍など”は円高を考慮すれば多少の増加と見ることができる。(註:記事中では、アメリカ合衆国は“アメリカ”、中華人民共和国は“中国”、大韓民国は“韓国”と称する。)

(表1-a)2009 vs 2010 洋書輸入統計表 (単位: 百万円)

分類	品目	2009 Jan-Dec	2010 Jan-Dec	前年比	構成比
書籍 および それに 類する もの	単一シートのもの	221	257	116.3%	0.7%
	辞典および事典	74	107	144.6%	0.3%
	その他のもの(書籍)	22,920	22,646	98.8%	62.4%
	幼児用の絵本および習字本	2,798	2,636	94.2%	7.3%
	小計(1)	26,013	25,646	98.6%	70.7%
	楽譜	465	458	98.5%	1.3%
	地図・海図・地球儀	1,055	1,047	99.2%	2.9%
	小計(2)	1,520	1,505	99.0%	4.1%
新聞・ 雑誌 その他 の定期 刊行物	1週に4回以上発行するもの	6	0.2	3.3%	0.0%
	雑誌・その他の定期刊行物	10,956	9,137	83.4%	25.2%
	小計(3)	10,962	9,137	83.4%	25.2%
合計	(1)+(3)	36,975	34,783	94.1%	95.9%
合計	(1)+(2)+(3)	38,495	36,288	94.3%	100.0%

◎「単一シート」が23カ国より輸入され、大所は中国(24%)、アメリカ(21%)、ドイツ(18%)、イタリア(12%)、メキシコ(5%)であった。

◎「辞典および事典」は11カ国からで中国(65%)が最多で、次点が香港(9%)、英国(7%)と続いた。

◎「書籍など」は53カ国から輸入され、アメリカ(38%)、英国(30%)、中国(11%)、ドイツ(7%)、フランス(3%)、シンガポール(2.4%)、韓国(2%)、その他は、スイス、香港、イタリア、ブラジル、オランダ、台湾、タイカ

ら1, 2億円台であった。

◎「幼児用絵本・習画本」は21カ国から輸入され、大半が中国（86%）であった。次点がアメリカ（4%）、近隣国のタイ、シンガポール、マレーシア、台湾の4カ国からの合計が約5.3%である。

◎「楽譜」は14カ国から輸入があった。流石にドイツ（44%）がトップで、アメリカ（31%）が次点、次いでイタリア（9%）、英国（5%）である。《♪「ラトビア」からの¥400,000という数値が目をついていたので覗いて見た。ラトビア共和国、通称ラトビアは世界的ヴァイオリニストのギドン・クレーメルを生んだ国である。ギドン・クレーメルの東京公演が4月に予定されているようである。4才の時から高名なヴァイオリニストであった父と祖父からヴァイオリンを習い、天才、鬼才の名をほしいままにする。ユダヤ人の父親はリーガの地下室に2年間隠れていてホロコストを逃れた。リーガは「バルト海の真珠」と讃えられる美しい港町。旧市街地がユネスコの世界文化遺産に登録されていることを初めて知った♪》

◎「地図・海図・地球儀」は、23ヶ国から輸入された。内訳は、製本した地図・海図は全体の8%と少なく、壁掛け用のものなどが中心で54%、地球儀・天球儀が38%である。毎年堅調な“壁掛け用のもの”の輸入は前年比+17.5%で、英国（77%）の増加が全てであった。アメリカ（9%）、オーストラリア（5%）の順である。製本したものは中国（26%）、アメリカ（19%）、台湾（15%）の順で、英国（12%）は4位である。地球儀・天球儀は、中国（42%）、台湾（25%）、インドネシア（16%）の近隣国のみで83%を占める。

◎「新聞・雑誌」が4年連続の減少になった。電子化が進んだのであろう。週4回以上発行するものはイタリアのみであった。前年、2009年も香港とアメリカ2カ国からの輸入であったので、在日の方々が個人的に、または書店経由で購読したものかと思われた。

★ 総重量と総冊数対照表はKG当たりの冊数を示した一覧（表1-b）である。

◎「単一シートのもの」と「その他のもの（書籍）」は冊数が示されていない。財務省のホームページによると、

【申告していただく数量が1つしかない場合は、原則として第2数量に計上され第1数量及び第1単位の欄は空欄になっています。】とあるが、単位は“KG”と表示されているので殆どが航空貨物または船荷のルートで輸入されたものと思われる。

（表1-b）輸入された総重量（Kg.）と総冊数対照表

品目 (書 籍 類)	輸入された「1Kgあたりの平均冊数」					
	2009 総冊数	2009 総重量	平均冊数 /Kg.	2010 総冊数	2010 総重量	平均冊数 /Kg.
単一シートのもの	--	189,404	--	--	292,435	--
辞典および事典	84,919	67,541	1.3	133,615	135,557	1.0
その他のもの(書籍)	--	8,253,281	--	--	8,869,669	--
幼児用の絵本および習画本	13,506,072	3,091,941	4.4	15,538,624	3,201,701	4.9
小計1(辞典+絵本)	13,590,991	3,159,482	4.3	15,672,239	3,337,258	4.7
(新聞・雑誌)						
1週に4回以上 発行するもの	43,815	2,900	15.1	1,700	1,244	1.4
雑誌・その他の 定期刊行物	13,152,409	3,376,435	3.9	10,876,233	2,618,123	4.2
小計2(新聞・雑誌)	13,196,224	3,379,335	3.9	10,877,933	2,619,367	4.2
合計1+2	26,787,215	6,538,817	4.1	26,550,172	5,956,625	4.5

◎「辞典及び事典」は、商品ミックスが偶々1KG：一冊の平均値になったと推測される。

◎「幼児用の絵本および習画本」については多少ページ数が少ない軽量の商品が増えたと思われる。

◎「新聞・雑誌」については、週4回以上発行するものの数値が前年から極端に変化している。1年分などをまとめたバックナンバーを1ユニットと計上したのだろうか。

★ 品目別の平均単価の一覧表（表1-c）

◎「辞典および事典」の平均単価の低下分は円高と商品ミックスの内容による。

◎「幼児用絵本および習画本」の輸入額の減少は小額本の増加のためであろう。

（表1-c）輸入された総冊数と平均単価対照表

品目 (書 籍 類)	輸入された「総冊数と平均単価」					
	2009 総冊数	2010 総冊数	前年比	2009 平均単価	2010 平均単価	前年比
単一シートのもの	--	--	--	--	--	--
辞典および事典	84,919	133,615	157%	¥871	¥801	92%
その他のもの(書籍)	--	--	--	--	--	--
幼児用の絵本および習画本	13,506,072	15,538,624	115%	¥207	¥170	82%
小計1(辞典+絵本)	13,590,991	15,672,239	115%	¥346	¥175	51%
(新聞・雑誌)						
1週に4回以上 発行するもの	43,815	1,700	4%	¥137	¥132	96%
雑誌・その他の 定期刊行物	13,152,409	10,876,233	83%	¥924	¥840	91%
小計2(新聞・雑誌)	13,196,224	10,877,933	82%	¥831	¥840	101%
合計1+2	26,787,215	26,550,172	99%	¥782	¥447	57%

◎「新聞・雑誌」については、週4回以上発行のものはほぼ前年の単価レベルを維持している。ジャーナル（雑誌）は、輸入額と冊数の減少率がほぼ同率であることから、円高を算入すると単価の下げ率は約3%と考えた。

2) 最近10年間の洋書輸入の推移 (表2-a, b, c) :

★ 書籍および新聞・雑誌の推移 (表2-a) である。

◎4年連続の減少である。2009年が過去10年間の最低であったが、2010年はそれを更に下回った。

(表2-a) 最近10年間の洋書輸入統計の推移 (単位 百万円)

品目	書類・辞典・絵本			新聞・雑誌・その他の の定期刊行物			合 計		
	輸入額	前年比	指数	輸入額	前年比	指数	輸入額	前年比	指数
2001	39,244	118%	100	19,125	116%	100	58,369	117%	100
2002	41,243	105%	105	15,892	83%	83	57,135	98%	98
2003	40,585	98%	103	16,756	105%	88	57,341	100%	98
2004	37,086	91%	95	14,575	87%	76	51,661	90%	89
2005	34,767	94%	89	15,353	105%	80	50,120	97%	86
2006	35,660	103%	91	16,259	106%	85	51,919	104%	89
2007	35,080	98%	89	15,824	97%	83	50,904	98%	87
2008	31,229	89%	80	13,300	84%	70	44,529	87%	76
2009	26,013	83%	66	10,962	82%	57	36,975	83%	63
2010	25,646	99%	65	9,137	83%	48	34,783	94%	60

★ 書籍・絵本などの細目の推移 (表2-b) である。

◎「単一シート」は、例年20数カ国から輸入されるが、アメリカとドイツが代表である。2010年は中国が前年比40%増とトップに躍り出た。この品目は幼児用絵本やアートブックなどのシート輸入が多いと思われ、製本された書籍類の輸入額の多い国々、例えばスイス、英国、カナダなどからの輸入が多いとは限らない。因みに、報告年の上記3カ国はそれぞれ23位、20位、18位である。

(表2-b) 最近10年間の品目別の推移 (単位 百万円)

品目	単一シート		辞 典		書 籍		絵 本	
	輸入額	前年比	輸入額	前年比	輸入額	前年比	輸入額	前年比
2001	271	234%	283	126%	36,255	120%	2,435	95%
2002	132	49%	333	118%	37,636	104%	3,142	129%
2003	212	161%	292	88%	36,673	97%	3,401	108%
2004	284	134%	316	108%	32,730	89%	3,756	110%
2005	337	119%	241	76%	30,111	92%	4,078	109%
2006	173	51%	154	64%	30,787	102%	4,546	111%
2007	307	177%	128	83%	29,580	96%	5,066	111%
2008	242	79%	179	140%	26,927	91%	3,881	77%
2009	221	91%	74	41%	22,920	85%	2,798	72%
2010	257	116%	107	145%	22,646	99%	2,636	94%

◎「辞典」はこの10年でほぼ3分の1に減少している。20年前（1990年）は¥467百万であった。10年間で半減（2000年）、20年の間に4分の1以下（2010年）へとマーケットが変化したと言えよう。因みに、2001年～2002年に出版された“imidas（集英社）”や“知恵蔵（朝日新聞社）”には CD-ROM が付録になるなど、各種の日本語・英語の百科事典や辞書・事典類が電子化へと形態を変え始めた時機だったのだと改めて感ずる。

《※平和だった学生時代に“現代用語の基礎知識（自由国民社）”の編集アルバイトのチャンスを得て、見出し語・新語・流行語などを修正、印刷所でゲラ刷りを校正する出版工程の訓練を受けた。持ちやすい書籍サイズと、求めやすい価格設定が読者に大いにアピールしたのだと今更のように感慨深い。1948年に雑誌「自由国民」の別冊として“現代用語の基礎知識”が発刊されたそうで、これが当時のIT機器以上の存在であったと言っても過言ではないと思う。この時の経験は非常に貴重な時間であった※》

◎「書籍」は4年連続の減少で、10年前（2001年）と比較すると約3分の2である。しかし、20年前（1990年）の記録（¥32,641百万）まで遡って見ると、この4年間の減少が際立っているように思える。“オンデマンド印刷”、言い換えれば“デジタル印刷技法”が普及してきたためであろうか？

◎「絵本」は絶対額が3年連続の減少であるが、3年連続の円高を考慮すると依然堅調と言えるのではないだろうか。10年毎の記録では20年前（1990年）の輸入額が¥1,258百万、10年前（2000年）が ¥2,567百万、2005年～2007年の増加が顕著なことを除けば、2010年もさして悲観するには当たらないレベルだと考える。

★ 新聞・雑誌、楽譜・地図の推移 (表2-c) である。

◎「新聞・雑誌」も4年連続の減少で、この10年間に半減以上である。電子ジャーナルの普及と円高が大きな要因であろうか。

◎「楽譜・地図」も、絶対額は3年連続の減少である。前年比で見ると、報告年は1%の減少だが、前年比約6%の円高であったので実質的には増加であろう。1990年から20年の流れを見ると、1990年（¥1,522）を100とする指数で5年毎の推移が89、76、112、99と上下している。マーケットは経済環境の変化に敏感なようで

ある。因みに、数値の高い2007年の指数は141である。

(表2-c) 最近10年間の品目別の推移 (単位 百万円)

品目	雑誌・新聞		楽譜・地図		合 計	
	輸入額	前年比	輸入額	前年比	輸入額	前年比
2001	19,125	116%	1,451	126%	59,820	118%
2002	15,892	83%	1,414	97%	58,549	98%
2003	16,756	105%	1,575	111%	58,909	101%
2004	14,575	87%	1,621	103%	53,282	90%
2005	15,353	105%	1,706	105%	51,826	97%
2006	16,259	106%	1,755	103%	53,674	104%
2007	15,824	97%	2,147	122%	53,052	99%
2008	13,300	84%	1,867	87%	46,396	87%
2009	10,962	82%	1,520	81%	38,495	83%
2010	9,137	83%	1,505	99%	36,288	94%

3) 主要国／地域からの輸入の推移 (表3-a, b) :

★ 主要10カ国 (表3-a) の上位5カ国は前年同様の順位を守ったが、フランスとシンガポールが7位、6位と入れ替わった。香港が9位になり、イタリアが3年ぶりに10位に浮上し、前年10位だったタイが14位へと後退した。しかし、10カ国の重要性を示す構成比は昨年同様の96%を示している。

(表3-a) 2010年 主要10カ国からの輸入統計 (単位 百万円)

品目 国名	書籍・辞典・絵本			雑誌・新聞・他の定期刊行物			合 計		
	輸入額	前年比	構成比	輸入額	前年比	構成比	輸入額	前年比	構成比
米	8,664	97%	34%	5,276	112%	58%	13,940	102%	40%
英	6,779	101%	26%	1,475	43%	16%	8,254	81%	24%
中国	4,983	105%	19%	59	81%	1%	5,042	104%	14%
独	1,631	100%	6%	71	24%	1%	1,702	88%	5%
オランダ	116	67%	0%	1,250	97%	14%	1,366	94%	4%
シンガポール	601	98%	2%	318	89%	3%	919	95%	3%
仏	693	88%	3%	153	74%	2%	846	85%	2%
韓国	501	78%	2%	204	88%	2%	705	80%	2%
香港	328	115%	1%	114	127%	1%	442	118%	1%
イタリア	245	115%	1%	97	84%	1%	342	104%	1%
小計	24,541	98%	96%	9,017	84%	99%	33,558	94%	96%
その他の国	1,105	109%	4%	120	43%	1%	1,225	94%	4%
合計	25,646	99%	100%	9,137	83%	100%	34,783	94%	100%

★ 主要地域別 (表3-b) 一覧である。

◎米・英と地域別に丸めた輸入額、前年比および構成比を示し、重要性を考えた一覧である。①ユーロ圏は17カ国、人口3億2,600万人の経済圏となっている。但し、その5カ国には他の通貨が流通しているために除外される地域、例えば、フランス領ポリネシア、ニューカレドニア、ウォリス・フツナ、オランダ領アンティル、アルバなど8地域がある。一方、欧州連合非加盟のユーロ使用国については昨年の報告でふれた。また、不参加権のイギリスが主権基地領域とするアクロティリおよびデケリアは、キプロス島内に位置してキプロスのユーロが流通しているなど複雑である。②東アジアとして、中国、韓国、香港、台湾の4カ国でまとめた。③東南アジアにはシンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナム、フィリピン、カンボジア、その他インド、パキスタン、ネパールの10カ国を含めた。合計額の構成比は4%である。2000年台に入ると、欧米出版社のアジア方面への活発な進出が数年間続き、特にシンガポールの拠点からの輸入量は10%～12%の構成比を示した。しかし、その後は徐々に減少して、2005年以降は10カ国全体で4%となっている。

(表3-b) 2010年 主要地域別統計 (単位 1,000百万円)

品名\国名	米	英	EURO 圏	東アジア	東南アジア	その他の国	合計
書籍類	8.7	6.8	2.8	6.0	0.9	0.5	25.7
雑誌類	5.2	1.5	1.5	0.4	0.4	0.1	9.1
合計	13.9	8.3	4.3	6.4	1.3	0.6	34.8
前年比	101%	82%	90%	103%	81%	100%	94%
2010 構成比	40%	24%	12%	18%	4%	2%	100%
2009 実績	13.7	10.1	4.8	6.2	1.6	0.6	37.0
2009 構成比	37%	27%	13%	17%	4%	2%	100%

4) 光学媒体について (表4) :

★“マイクロフィルム”の統計は2006年分まで約20年に亘り独立した品目として貿易統計に載り、2000年初頭には¥4億円以上の輸入があったが、今年になってその耐久性に問題が起きている。同じ2007年から“CD-ROM”も“光学媒体”という大きなジャンルに統合されて統計に載っている。因みに、“CD”や“DVD”のような光学メディアについても“永久保存に耐えるものばかりではない”と耐久性に疑問を投げかける情報がある。“Blu-

ray”で4層100GB から8層200GBまでの記録再生が可能になるなど進歩の情報があり、ますます利用度が広がると思われるので、保存方法については充分注意をしていただきたいと思います。

(表4) 光学媒体・半導体媒体の輸入額の推移 (単位 百万円)

品名 年	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	前年比
CD-ROM (1)	39,231	37,078	34,397	39,206	～	～	～	～	NA
CD-ROM (2)	17,836	23,263	28,766	31,412	～	～	～	～	NA
合計	57,067	60,341	63,163	70,618	～	～	～	～	NA
光学・ 半導体	～	～	～	～	115,413	95,179	77,012	77,012	100%

5) 輸入額11位～30位の推移一覧表 (表5) :

(表5) 2010年 国別11位～30位の輸入統計 (単位 百万円)

国名 項目	2010年輸入額合計			2009実績 書籍+雑誌	2010年 前年比	2009年 総合順位	2010年 総合順位
	書籍	雑誌・新聞	合計				
主要10カ国 合計	24,541	9,017	33,558	35,575	94%	(1-8,10,11)	(1-10)
スイス	270	2	272	177	154%	12	11
台湾	151	29	180	121	149%	14	12
ブラジル	125	45	170	162	105%	13	13
タイ	151	5	156	429	36%	9	14
マレーシア	128.6	0.3	129	112.4	115%	15	15
カナダ	52	1	53	47	113%	18	16
ベルギー	22	16	38	63	60%	17	17
メキシコ	25	3	28	5.7	491%	26	18
ロシア	26.4	0	26.4	93	28%	16	19
インド	20	6	26	25	104%	21	20
スペイン	20	2	22	35	63%	19	21
オーストラリア	12	8	20	23	87%	20	22
スウェーデン	16	1.5	17.5	14	125%	23	23
インドネシア	12.2	0.5	12.7	18	71%	22	24
オーストリア	10.0	0.0	10.0	9.5	105%	25	25
チェコ	5.5	0.0	5.5	8.5	65%	～	26
フィリピン	5.4	0.0	5.4	2.9	186%	～	27
フィンランド	5.2	0.0	5.2	3.0	173%	29	28
ハンガリー	5.0	0.0	5.0	0.8	625%	～	29
ポーランド	4.6	0.0	4.6	5	92%	28	30
小計(1)	1,062	119	1,182	1,349.8	88%	～	～
その他の国	42.5	1.0	43.5	50.0	87%	～	～
小計(2)	1,105	120	1,225	1,400	88%	～	～
合計	25,646	9,137	34,783	36,975	94%	～	～

★ デンマーク、ベトナム、スロバキアが後退して、チェコ、フィリピン、ハンガリーが入った。主要10カ国に11位～20位を加えるとトップ20カ国の輸入額は99.6%となり、他の国々からの輸入が極めて小さいことが見える。金やダイヤモンドの世界的産地でアフリカ最大の経済大国、南アフリカ共和国からも輸入があった。金額的には23万円と最下位で、残念賞レベルであった。

6) 洋書関連品目の輸入統計について (表6) :

★ 「実行関税率表 (輸入の場合)」の“第10部 (木材パルプ、繊維素繊維を原料とするその他のパルプ、古紙並びに紙及び板紙並びにこれらの製品)”は第47類～第49類の3グループに分類され、“第49類 (印刷した書籍、新聞、絵画その他の印刷物並びに手書き文書、タイプ文書、設計図及び図案)”から「書籍、新聞・雑誌その他絵本、楽譜、地図など」に焦点を絞って報告を作成しているが、その他の品目はここ列举したとおりである。特に、「その他の印刷物」に分類される“広告・商業用カタログ、”“絵画、”“その他のもの”および「郵便切手・収入印紙など」の輸入量は多く、これらは書籍と雑誌類の1.4倍と無視できない金額になっている。(注:例年この(表)には、「幼児用絵本」、「楽譜」、「地図・海図」も含めたが、これら馴染み深い品目は書籍類として“表1”などにて報告済みなので、今回は除外した。)

(表6) 2009vs2010(&2001:10年前) 洋書関連品目輸入統計表 (単位 百万円)

品目 \ 内訳		2009年 輸入額	2010年 輸入額	前年比	2001年 輸入額	2001年(10年間) との比較
葉書、印刷したカードなど		1,582	1,786	113%	1,179	151%
カレンダー	紙製または板紙製 その他のもの	2,343 97	2,263 71	97% 73%	1,615 111	140% 64%
	小計	2,440	2,334	96%	1,726	135%
その他の 印刷物	広告・商業用カタログなど	7,443	7,284	98%	5,724	127%
	写真	2,160	2,088	97%	687	304%
	絵画・デザインなど	1,049	959	91%	2,481	39%
	その他のもの	14,359	14,876	104%	19,928	75%
小計		25,011	25,207	101%	28,820	87%
郵便切手・収入印紙など		23,865	22,053	92%	189	11,668%
デカルコマニア		556	571	103%	869	66%
設 計 図		50	34	68%	472	7%
合 計		53,504	51,985	97%	33,255	156%

7) 輸出統計「書籍と新聞・雑誌」(表7-a, b) :

★ 書籍・雑誌は(表7-a) 前年比122%と大幅ジャンプで、ここ10年の最高を達成した。企業努力に併せて、3年連続の円高が後押しになったのかも知れない。

(表7-a)2009vs2010 書籍類「輸出」統計表 (単位 百万円)

分類	品目	2009輸出額	2010輸出額	前年比	2010構成比
書籍 および それに 類する もの	単一シートのもの	3,646	6,543	179%	33.2%
	辞典および事典	19	26	137%	0.1%
	その他のもの(書籍)	7,555	7,773	103%	39.5%
	幼児用の絵本および習画本	138	83	60%	0.4%
	小計(1)	11,358	14,425	127%	73.2%
	楽譜	184	225	122%	1.1%
	地図・海図・地球儀	49	74	151%	0.4%
	小計(2)	233	299	128%	1.5%
新聞・雑誌 その他の 定期刊行物	1週に4回以上発行するもの	15	17	113%	0.1%
	雑誌・その他の定期刊行物	4,578	4,957	108%	25.2%
	小計(3)	4,593	4,974	108%	25.3%
合計	(1)+(3)	15,951	19,399	122%	98.5%
合計	(1)+(2)+(3)	16,184	19,698	122%	100.0%

◎「単一シート」は2009年より6カ国多い40カ国に輸出された。アメリカへ最も多い38%、オランダへ20%、オーストラリアへ12%、その他シンガポール、香港、カナダなど輸出先は主な出版拠点がある国々のようであった。マダガスカル、南アフリカ共和国にも少量の輸出があった。

◎「辞典・事典」は8カ国へ輸出された。前年より4カ国少ない。アメリカ(32%)、台湾(22%)、香港(20%)に次いで4位がツバル(18%)であった。ツバル(Tuvalu)はオセアニアにある独立国家。人口1万人弱でバチカンに次ぐミニ国家。海拔が最高で5メートルと、温暖化による海面上昇に対して脆弱である島国として知られる。180単位で¥4.7百万、即ち、単純計算で1単位(冊?)が約¥26,000と高額な商品のようなので興味深い。

◎「その他のもの(書籍)」の輸出先は108カ国で前年より8カ国多かった。ケイマン諸島(英)、トケラウ諸島(ニュージーランド)、仏領ポリネシア、グアム(米)、北マリアナ諸島(米)が独立した「国コード」で記載されているので「国」として計算している。前年は輸出のなかった「モルディブ」と「モルドバ」が目についた。前者はインド洋に浮かぶ26の環礁や1,200の島々から成る共和国、後者は東ヨーロッパに位置し、言語的、文化的にルーマニア人といわれる共和国である。因みに、ケイマン

諸島は3つのサンゴ礁の島からなり「宝島」のモデル、トケラウ諸島も3つの環礁から成る。戦後10数年後のアメリカの田舎町で見た、所謂「華僑“の人たちの逞しい進出に驚いたことを思い出す。今日、世界各地における日本人の活躍に感動を覚える。

◎「幼児用絵本および習画本」は前年より4カ国少ない9カ国で、香港(67%)、カンボジア(13%)であった。

◎「楽譜」は前年より1カ国多く23カ国へ輸出されて、多少の入れ替わりがあったが、「マダガスカル」が含まれていた。世界第4位の大きさの島で、東アフリカのインド洋に浮かぶこの共和国はマルコ・ポーロの「東方見聞録」に記述があるそうであるが、日本との貿易量はあまり多くなさそうだ。首都アンタナナリボのスナップを見て、街並みが何故か近親感を誘った。

◎「地図・海図・地球儀」は前年より1カ国減って15カ国へ。韓国が最高であったが、10%減って40%となった。地球儀や製本したものは少なく、全体の86%が「その他のもの(壁掛け型など)」の範疇のものである。

◎「新聞・雑誌」は30カ国に輸出されて、前年より1カ国少ないが、量的には増加である。原価は約¥212/冊の計算になった。週刊誌などが多いという推測が成り立ちそう。

★ 10年間の輸出統計の推移(表-7b)である。

絶対額の前年比では最近5年は安定成長で、2010年は10年前のレベルを更新している。「指数」は、10年前を100としての計算である。

(表7-b)10年間の書籍類「輸出」統計の推移 (単位 百万円)

分類 / 暦年	書籍・辞典・絵本			雑誌・新聞			合 計		
	輸出額	前年比	指数	輸出額	前年比	指数	輸出額	前年比	指数
2001	13,848	96%	100	4,302	98%	100	18,150	97%	100
2002	13,449	97%	97	4,311	100%	100	17,760	98%	98
2003	12,799	95%	92	4,283	99%	100	17,082	96%	94
2004	11,330	89%	82	4,492	105%	104	15,822	93%	87
2005	10,342	91%	75	4,587	102%	107	14,929	94%	82
2006	11,159	108%	81	4,580	100%	106	15,739	105%	87
2007	11,831	106%	85	4,810	105%	112	16,641	106%	92
2008	10,816	91%	78	4,717	98%	110	15,533	93%	86
2009	11,358	105%	82	4,593	97%	107	15,951	103%	88
2010	14,425	127%	104	4,974	108%	116	19,399	122%	107

8) 書籍と雑誌の“輸入”：“輸出”の歴史(表8)：

★ “リプリント版”の出版が始まり、輸出が大幅の伸びた1985年を、毎年、参考に載せ続けている。

(表8) 書籍と雑誌の「輸入:輸出」の歴史

分類／ 暦年	1985	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
輸入	45	77	77	77	75	74	74	70	64
輸出	55	23	23	23	25	26	26	30	36

最近では概ね2:1ほどの割合で進んでいる。

9) 為替相場と洋書価格への推定影響度(表9)

★ 例年のとおり、5主要通貨の年間平均値をベースにした。日本銀行の数年前の資料を参考にした“決済通貨の使用率”は、新しい数値が検索できないので同率を使用している。念のため。

(表9) 為替相場と洋書価格への推定影響度

暦年／ 通貨	2007年の 年間平均 為替相場	2008年の 年間平均 為替相場	2009年の 年間平均 為替相場	2010年の 年間平均 TTS 為替相場	前年比 [(+)は円高 [(-)は円安]	決済通貨の 使用率 (推定)	2010年度の (vs.2009年) 影響度(推 定)
US\$	¥118.84	¥104.55	¥94.57	¥88.81	6.1%	71%	-0.3%
Stg.£	¥239.80	¥196.49	¥150.35	¥139.60	7.1%	2%	0.6%
EURO	¥162.74	¥153.93	¥131.70	¥117.89	10.5%	1%	3.8%
CAN\$	¥111.54	¥99.52	¥83.79	¥86.78	-3.6%	1%	-2.7%
S.Fr.	¥99.03	¥96.82	¥87.15	¥85.07	2.4%	1%	-3.8%
Australian \$	¥100.91	¥90.66	¥75.91	¥82.57	-8.8%	?	?
New Zealand \$	¥88.69	¥76.21	¥61.22	¥65.21	-6.5%	?	?
Hong Kong \$	¥15.53	¥13.91	¥12.50	¥11.73	6.2%	?	?
Yuan Renminbi	unquoted	unquoted	unquoted	¥12.70	?	?	?
Others	~	~	~	~	~	1%	~
Jpn.¥	~	~	~	~	~	23%	~
年間平均	¥122.24	¥107.45	¥96.29	¥90.45	6.1%	100%	-0.3%

◎各通貨の年間平均は、三菱UFJ銀行の最終公表相場による各通貨の月中平均値の単純平均(月中平均の合計/12ヶ月)で、三菱リサーチ&コンサルティングのホームページより検索した数値をベースに、通貨使用率を加味して全体の年間平均を得た。

◎《二重線括弧内》イタリックの数値は、銀行筋が“投資信託”などで頻繁にオファーする4通貨を示した。

“中国・人民元”は年末TTSである。純粋に参考までの資料なので、念のため。

10) 10年間の為替推定影響度の歴史(表10)：

★ 参考までに10年間の推移をまとめた一覧表である。

(表10) 10年間の推定影響度の歴史(主要通貨)

区分／ 暦年	書籍・雑誌 輸入額前年比	為替相場 平均値前年比	推定影響度 成長率(+) (-)
2001	177.4%	-9.4%	7.9%
2002	97.9%	-6.4%	2.6%
2003	100.4%	-2.3%	-5.5%
2004	90.1%	-1.4%	-4.6%
2005	97.0%	-1.5%	-1.1%
2006	103.6%	-9.4%	-6.1%
2007	98.0%	-2.3%	-4.2%
2008	87.0%	11.7%	2.3%
2009	83.0%	10.6%	-7.2%
2010	83.0%	6.1%	-0.3%



★ “Hitch your wagon to a star!”「星に車をつなげ!」は哲学者エマソンの“文明論”から出たことばだそうである。日本の諺、「大望をいだけ!」に匹敵する。しかし、“実力者を利用せよ!”を意味する場合もあり、ことばは反対の事象を意味することも多い。“trust my star”は「自分の運勢を信じる」である。今、東日本大震災からの復興への道は日本人にとって大きなチャレンジであると強く感じ、渦中のひとりとして、このことばを「高遠な理想に向かって奮い立て!」と訳し、新しい標語にしたいと思っている。

おわり

新入会員紹介

TECHNOMICS 株式会社 テクノミック

〒104-0031 東京都中央区京橋 1-16-10 オークビル京橋 7F

TEL. 03-3538-2531 FAX. 03-3538-2537

URL. <http://www.technomics.co.jp/>

Email. sales@technomics.co.jp

代 表 者：代表取締役 大塚賢一郎

会員代表者：取締役 営業部長 森 隆之

会社紹介

医薬品研究開発関連の書籍、雑誌の輸入販売業者として創業。ほどなく出版も手掛け、1982年創刊の「明日の新薬」は、翌年索引をフロッピーで提供開始し、国会図書館より我が国初の電子出版物と認定されました。現在は医学映像資料などの制作を含む出版、製薬会社向け医学資料の制作販売、海外のデータベース・雑誌販売の3分野で事業を展開しています。顧客は製薬関連企業、医歯薬系大学、医療計専門学校、病院、公共機関などです。

委員会報告<レクリエーション委員会>

第 11 回 JAIP ボウリング大会

2011年2月22日(火)

会 場：ロサボウル(池袋)

参加者：11名(6社) 男性8名 女性3名

競 技：3Gのトータルピン(ハンディキャップあり：平均150として算出)

上位の成績は下記の通り

順位	氏名(社名)	総得点	1G	2G	3G
優勝	野本 晃(日本出版貿易)	517	121	111	135
2	平野 覚(ユサコ)	511	162	142	222
3	小向奈保子(絵本の家)	511	103	145	128
4	山中玄致(ユサコ)	463	184	135	147
5	佐藤 圭(ユサコ)	462	99	71	118
6	鶴 竜次(東亜ブック)	455	117	117	140
7	植原英男(日本出版貿易)	444	125	153	124
8	柿沼大輔(ユサコ)	439	111	135	148
9	マーク・グresham(UPS)	430	142	127	143
10	尾崎繁美(エイビスブックセールズ)	392	105	94	94

ハイスコア男性/G 平野 覚(ユサコ) 222

ハイスコア女性/G 小向 奈保子(絵本の家) 145



【優勝者のコメント】昨年の途中から参加させて頂く運びとなり、今では皆様と楽しい時間を共有させて頂いております。今回は、優勝という喜ばしい結果を残すことが出来ました。これは全て新ルール(ハンディキャップ)のおかげです。有難うございました。今後もボーリングを通じて、会員の皆様と楽しい時間を過ごせれば、幸いだと思っています。

野本 晃(日本出版貿易株式会社)

次回は2011年5月24日に開催いたします。

丸善 / ユーリカプレス 共同企画 第1弾!

編集および日本語解説・英語序文:大石和欣(名古屋大学)・出島有紀子(桜美林大学)

Foundations of the National Trust

Lives and Works of Octavia Hill, Robert Hunter and H.D. Rawnsley

ナショナル・トラスト 創設関連文献復刻集成

全5巻+和文解説

History of Social Reform Movements in
Britain and America Ser.

Foundations of the National Trust Foundation
Foundations of the National Trust Foundation
Foundations of the National Trust Foundation
Foundations of the National Trust Foundation
Foundations of the National Trust Foundation
Foundations of the National Trust Foundation
Foundations of the National Trust Foundation
Foundations of the National Trust Foundation
Foundations of the National Trust Foundation
Foundations of the National Trust Foundation



2011年1月刊行. 5 Vols., 2,488 p., Hard.

ISBN 978-4-905211-00-6 通常価 ¥134,400(税込)

ナショナル・トラスト(正式名称:The National Trust for Places of Historic Interest or Natural Beauty)は、ヴィクトリア時代末期の1895年、工業化が進み破壊の脅威にさらされる英国の自然環境と歴史的景観を保護すべく設立され、景勝地や歴史的な建造物や町並みの数々を国民財産として保護・公開するその運動を通じ、現在では世界最大の環境保護団体として、世界的に知られます。

本叢書は、社会改革者オクタヴィア・ヒル女史(1838-1912)、弁護士ロバート・ハンター卿(1844-1913)、聖職者ハードウィック・ローンズリィ師(1851-1920)という、トラストの創立者たちが残した代表的な著作や書簡、および各人の生涯を描いた伝記を集成する初の復刻コレクションです。

EPM, JPN / 日本総代理店:丸善

上記の商品に関するお問い合わせは

M MARUZEN

丸善株式会社 学術情報ソリューション事業部 商品センター

〒140-0002 東京都品川区東品川4-13-14 グラスキューブ品川

TEL:03-6367-6079 FAX:03-6367-6184 e-mail: irneisui3@maruzen.co.jp

ジェーンウェイの免疫生物学 第8版

Janeway's Immunobiology. 8th Edition

By Kenneth Murphy

July 2011 928 pages Paperback 978-0-8153-4243-4 予価 ¥8,400.- (本体 ¥8,000.-)

Janeway's Immunobiology is a textbook that introduces the immune system in all its aspects to undergraduates, and also provides a treatment of the subject that is comprehensive enough to be useful to graduate students interested in research, and to medical students focused on clinical applications. The Eighth Edition has been thoroughly revised and updated and is available in both print and e-book formats.

Janeway's Immunobiology continues to set the standard for currency and authority with its clear writing style and organization, uniform art program, and scientific accuracy. It presents a consistent point of view throughout—that of the host's interaction with an environment containing many species of potentially harmful microorganisms. The full-color art program is conceptually coherent and illustrates the processes and mechanisms underlying the concepts in the text. The 16 chapters in this readable, accessible textbook are organized and presented in such a way as to help deliver a complete one-semester immunology course, beginning with innate immunity, then moving to adaptive immunity, and ending with applied clinical immunology.

Discussion questions are provided at the end of Chapters 2 to 16. These questions can be used for review, or as the basis for discussion in class or in informal study groups. Summaries conclude each section and each chapter. As in previous editions, a caduceus icon in the margins indicates topics which are correlated to *Case Studies in Immunology*, Sixth Edition by Geha and Notarangelo.

Contents

Part I: An Introduction to Immunobiology and Innate Immunity

Chapter 1: Basic Concepts in Immunology

Chapter 2: Innate Immunity: The First Lines of Defense

Chapter 3: The Induced Responses of Innate Immunity

Part II: The Recognition of Antigen

Chapter 4: Antigen Recognition by B-cell and T-cell Receptors

Chapter 5: The Generation of Lymphocyte Antigen Receptors

Chapter 6: Antigen Presentation to T Lymphocytes

Part III: The Development of Mature Lymphocyte Receptor Repertoires

Chapter 7: Signaling Through Immune System Receptors

Chapter 8: The Development and Survival of Lymphocytes

Part IV: The Adaptive Immune Response

Chapter 9: T Cell-Mediated Immunity

Chapter 10: The Humoral Immune Response

Chapter 11: Dynamics of Adaptive Immunity

Chapter 12: The Mucosal Immune System

Part V: The Immune System in Health and Disease

Chapter 13: Failures of Host Defense Mechanisms

Chapter 14: Allergy and Allergic Diseases

Chapter 15: Autoimmunity and Transplantation

Chapter 16: Manipulation of the Immune Response

日本総代理店



United Publishers Services Limited

〒140-0002 東京都品川区東品川 1-32-5 Tel: 03-5479-7251 Fax: 03-5479-7282

UPS1105